



小郡市立大原中学校 令和8年5月22日 第5号

大原中学校だより

校長 末崎 謙次



【学校教育目標】自走と共生に必要な資質・能力を身につけた生徒の育成

頑張った体育大会！「共走～楽しみ！駆けぬけ！心ひとつに！大原 run～」

爽やかな五月晴れの中、5月17日に本年度の体育大会を開催いたしました。今年のスローガン「共走～楽しみ！駆けぬけ！心ひとつに！大原 run～」のもと、全校生徒が心を一にし、最後まで全力で駆け抜ける素晴らしい体育大会となりました。



どの学年、どのクラスも、これまでの練習の成果を存分に発揮していました。バトンだけでなく心もつないだ白熱の「リレー」や「学年競技」、そしてブロックの仲間と一丸となって創り上げた「集団創作演舞」など、どの場面を切り取っても皆さんの素敵な笑顔と力強い姿がありました。予行練習の時よりもさらに上達した競技の様子はもちろんのこと、一生懸命に仲間を応援する姿や、係の仕事に責任を持って取り組む姿など、一人ひとりが自分の役割を果たし、全員が主役として輝いていました。



また、本校の伝統でもある「パラパラ炭坑節」では、卒業生も参加し、グラウンド全体が笑顔と一体感に包まれました。世代を超えて受け継がれる大原中学校の温かい繋がりを改めて実感する感動的なひとときとなりました。



全競技終了後の皆さんの顔には、やり切ったという充実感や満足感があふれ、晴れやかな表情が輝いていました。この体育大会の大成功の裏には、企画や準備など、見えないところで奔走してくれた実行委員長の廣瀬さん、久光さん、日野さんを中心とした拡大実行委員会の皆さんの活躍がありました。改めて心から感謝の拍手を送ります。

今回の体育大会スローガン「共走」には、本年度の生徒会スローガン「共創」、そして本校のキーワードである「自走」と「共生」の精神が見事に体现されていました。自ら考え行動し（自走）、仲間と支え合い（共生）、共に新しいものを創り上げる（共創）力を、皆さんは体育大会を通じて大きく伸ばしてくれました。今回の感動と経験を胸に、今後の学校生活も力強く歩んでいってほしいと願っています。

実行委員長

体育大会を終えて、まだ終わりがくなくというさびしい気持ちと、やりとげた達成感の両方の気持ちを感じています。練習で全校生徒が一生懸命ダンスをしたり、作戦を立てたりする姿や、当日の応援などを見て、ここまで頑張ってきて本当に良かったと思いました。昼休みのパラ炭練習にたくさんの人が参加をしてくれたり、テントに戻ってきたときには「おつかれさま！」という一言が聞こえてきたり学年を超えての絆や繋がりを感ずることができました。しかし、全校生徒の全員がそろって体育大会の活動に取り組むことができなかったことは心残りです。もっと自分にできることがあったはずだと後悔の気持ちもあります。それでも、ここまで素晴らしい体育大会と一緒に創りあげてくれた仲間には、感謝の気持ちいっぱいです。この体育大会で深めた絆と、感じた悔しさを大切にしてこれからの学校生活や文化発表会を最高のものにしていきます。

実行委員長

実行委員長として準備が本当に大変でしたが、体育大会を終えての達成感をすごく感じました。ここまで一生懸命行事に取り組むことができたことが本当にいい経験になりました。特に全体練習やパラ炭練習、呼びかけでは自分の思った通りにならなくて拡大実行委員会のみんなに何度も助けてもらいながら進めることができました。私が一番印象に残った場面は、テントにいる人たちの応援です。自分たちのブロックがゴールしてもまだゴールしていない他のブロックを応援している姿があり、それを見てすごくうれしかったです。競技中はその声援が聞こえてきて、とてもうれしく頑張ることができました。体育大会スローガンを達成することができたと思うし、今回の体育大会を実行委員長として最後まで駆けぬけることができて本当によかったです！

実行委員長

体育大会を終えて、私は「みんなで協力する」ことの大切さを感じました。最初はうまくいかないことが多く、練習で声が出ていなかったり、動きが合わなかったりしていました。しかし練習を重ねるうちに、リーダーを中心に声をかけ合えるようになり、少しずつまとまっていったとp思います。練習中に友達が失敗して落ち込んでいたとき、みんなが励ましていた場面でもみんなのつながりを感じました。一人だけで頑張るのではなく、みんなで支え合うことで本番の成功につながったのだと思います。体育大会を通して、協力することの大切さや、仲間を信じることの大切さを学ぶことができました。この学びをこれからの学校生活に生かしていきたいです。